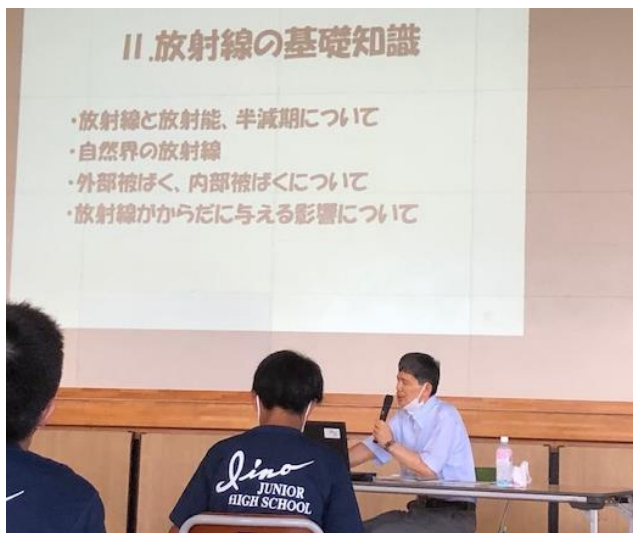


これからも福島で健康に暮らすために

昨日、26日(水)の午後、「放射線と子どもの健康」をテーマに、講演会を行いました。講師の先生は、福島県小児科医会会長 竹内 ことどもクリニック院長の竹内真弓先生です。



講演会のサブテーマとして、この記事のタイトル「これからも福島で健康に暮らすために」が設定されており、講演では、私たち福島県民が、将来に渡って持っていなければならない知識や情報、また放射線と健康との関係についての科学的な根拠や裏づけとなる調査結果等を詳細に提供していただきました。

講演会は、3部構成で、最初が東日本大震災後の原子力災害について、次が放射線の基礎知識について、そして最後が県民健康調査についてという流れで行われました。

体育館で、ソーシャルディスタンスを十分に取り、大型扇風機8台で換気と送風をしながらの講演会でしたが、体育館内は33度越えの蒸し暑さ。なかなか集中して聞くことが難しい環境でしたが、熱心に資料にメモを取ったり、顔を上げてしっかり話を聞こうとしたりする生徒の姿が印象的でした。



講演会後の生徒アンケートからいくつか拾ってみました。

- ・ 現在の福島では放射線があまりないことが分かり安心しました。
- ・ 放射線よりタバコやお酒の方がガンになりやすいことが分かりました。
- ・ 放射線が飛ぶ距離が分かって役に立った。
- ・ 日本よりも、自然放射能を浴びる量が多い国があるのに驚きました。
- ・ 放射能を少ししか浴びていないことや、いっぺんに浴びなければ人体に害が及ばないことを知り、安心しました。
- ・ ガラスバッジや検査を受けて、自分のことをもっと知ろうと思いました。
- ・ 将来、福島の人だからと差別を受けた時、福島の人たちは放射線をたくさん浴びたわけじゃないんだと言い返せる知識をもらってとてもよかった。
- ・ 放射線について詳しく知ることができたので、もっと放射線について詳しく知っていきたい。
- ・ 福島では内部被ばくも外部被ばくも少なく、福島の商品は安全だと知って安心しました。

生徒は、講演会の資料をもっています。この週末にでもぜひ、当時のことなど、ご家庭でもお話ししてみてください。